

[令和4年度入学者]

総合医薬学研究科 三つのポリシー（プログラム別）

（プログラム名をクリックしてください。）

総合医薬学研究科-先端医科学プログラム

総合医薬学研究科-看護科学プログラム

総合医薬学研究科-基礎薬学プログラム

総合医薬学研究科(先端医科学プログラム)の三つのポリシー

【修士(医科学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

先端医科学プログラムは医科学の専門知識を習得して医科学研究を実践し、研究成果の発表、研究論文の作成を行った経験を活かし、専門職医療人としてのスキルアップ、専門職企業人として活躍、大学院博士課程へ進学する者を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

【修了認定・学位授与の方針】
 先端医科学プログラムでは、医科学の専門知識を習得して医科学研究を実践し、研究成果の発表、研究論文の作成を行った経験を活かし、専門職医療人としてのスキルアップ、専門職企業人として活躍、大学院博士課程へ進学する者を育成することが社会から期待されている。そうした人材を育成するために、本プログラムでは、所定の課程を修め必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格し、以下に示す「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付けた者に修士(医科学)の学位を授与する。

【教育課程編成方針】
 医学・医療分野の高度専門職業人となるべく、医学・医療に関する幅広い知識を体系的に身に付けさせる教育課程を編成する。学生が所属する研究室における個人指導により医学研究の基礎専門知識と技術を修得させる。また、新規性と学術的重要性を含む学位論文の作成と発表を指導する。

【教育課程実施方針】
 所属研究室を中心に、学生による能動的な学修を行う。1年次には、大学院共通科目、研究科共通科目、幅広い必修科目、選択科目を履修させ、医学の基盤的能力、高度な専門的知識、倫理観を修得させる。2年次には学位論文の作成と発表を指導する。

【入学者受入れの方針】
 ・生命科学に興味を持ち、医学の基礎・臨床分野における基礎知識を修得し、最先端の知識に触れることにより、高度な専門職業人として様々な分野で活躍したい人材を求める。
 ・医療系の社会人として、最先端の医学知識の涵養を図り、職場でのキャリアアップを図りたい人材を求める。

【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】
 多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また社会人特別入試、外国人留学生特別入試を実施する。

一般入試
 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

社会人特別入試
 入学者の選抜は、業績審査、外国語(英語)試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

外国人留学生特別入試
 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

【学修成果の到達指標】

【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】

【求める資質・能力】

【学修成果】
 基盤となる豊かな学識や俯瞰的、大局的視野を身に付けている。

【到達指標】
 大学院共通科目並びに幅広い専門領域の中から選択科目を履修する。研究室や履修科目において、研究分野の知識や論文内容について議論できる能力を身に付けている。専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる能力を身に付けている。
 先端医科学プログラムで定める修了要件に必要な授業科目の単位を修得している。

【学修内容】
 共通科目などの専門分野における知識の修得、英語論文の読解と紹介を行う。

【学修方法】
 能動的な学修による情報の収集、関連論文の収集と読解を学修する。

【学修成果の評価方法】
 カリキュラムにおける必修科目を含む選択科目の修得について、成績評価基準に基づいて評価する。執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。

【求める資質・能力】
 医科学分野に対する知的興味を持ち、能動的に学修を行い、初歩的な英語論文読解力を有し、他者と論理的に議論することに関心を有している。

【学修成果】
 専攻分野における研究能力及び高度の専門性を要する職業に必要な高度の能力を身に付けている。

【到達指標】
 専門的知識の取得。専門分野における研究課題の解決方法が実践できる。研究成果を専門分野の学会で発表できる。

【学修内容】
 専門科目の履修を行う。専門分野における課題解決のための知識の収集、調査や実験の実施を行う

【学修方法】
 専門分野科目の履修、研究室での論文の紹介や研究結果の発表、専門学会での研究成果の発表と議論を学修する。

【学修成果の評価方法】
 カリキュラムにおける選択科目等の専門分野科目の修得について、成績評価基準に基づいて評価する。執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。

【求める資質・能力】
 能動的に学修を行い、関連分野の専門知識に関心を有している。

【学修成果】
 研究倫理に関する規範意識を身に付けている。

【到達指標】
 大学院共通科目「研究倫理」を履修し、合格している。研究倫理e-ラーニングに合格している。研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講している。

【学修内容】
 研究不正の事例や研究不正防止方法について学ぶ。

【学修方法】
 大学院共通科目「研究倫理」を履修する。研究に必要な研修(臨床研究、遺伝子組換え実験、動物実験、放射線使用実験など)を受講する。

【学修成果の評価方法】
 大学院共通科目「研究倫理」の合格、e-ラーニング研究倫理科目の合格、必要な研修の受講により評価する。執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。

【求める資質・能力】
 一般的な倫理観、道徳論を身に付けている。

【学修成果】
 自らが新たな知を創造し、その知からさらなる価値を生み出す能力を身に付けている。

【到達指標】
 学位論文を執筆できる能力を身に付けている。学会等で、議論できる。
 修士学位論文審査及び最終試験に合格している。

【学修内容】
 学位論文の基盤となる研究の実施と学位論文の作成、学会等での発表準備方法を学修する。

【学修方法】
 能動的な学修による学位論文作成、学会発表の準備を行う。

【学修成果の評価方法】
 執筆した学位論文の内容ならびに口頭発表について、学位論文評価基準に基づいて評価する。

【求める資質・能力】
 幅広い知的興味をもち、創造性に対して関心を持っている。

総合医薬学研究科(看護科学プログラム)の三つのポリシー

【修士(看護学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的
<p>看護科学プログラムは、現代社会の多様な要請に応えるために、看護学専門領域における研究や学際的知見の成果を総合的に活用して、保健・医療・福祉の分野で活躍できる高度医療専門職業人又は教育研究者を育成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修士認定・学位授与の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、一連の研究プロセスと網羅的に立案・展開できる研究能力を身に付けている。 看護の現状認識と将来の展望に立ち、保健医療福祉における課題を総合的・組織的に把握し、解決を図ることができ、看護の高度で専門的な職業人として国際的にも信頼・通用する卓越した知識・能力を身に付けている。 <p>上記の人材の育成を目的に、以下に示す「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」として、十分な学修成果を上げた者に修士(看護学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護科学プログラムでは、修士認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を体系的に修得できる教育課程を編成する。 看護学専門領域における研究や学際的な動向について多角的に情報を収集し、より質の高い看護実践・教育を導く看護研究課題を設定し、研究論文作成・公表に必要な基本的研究方法を体系的に修得する教育課程を編成する。 看護の対象すなわち個人・家族・集団・コミュニティを包括的・全人的に理解し、学際的知見を総合的に取り入れ、国際的にも信頼・通用する確かな看護実践能力と指導力、さらに保健医療福祉に携わる専門職としてのマネジメント能力を体系的に修得する教育課程を編成する。 ホリスティックな看護と伝統的なケアを含めた統合医療の観点を取り入れ、高い倫理観のもと看護の根元を追究し続ける素養を修得する教育課程を編成する。 <p>【教育課程実施方針】</p> <p>看護科学プログラムにおける教育は、大学院共通科目、研究科共通科目、看護科学プログラムの各科目、学位論文指導により実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年次より、学位論文の研究課題・計画を検討する。倫理手続きを遵守し研究を遂行し、修士(看護学)の学位論文を作成する。 2 看護の指導者・研究者に必要な基盤となるプログラム共通科目と、各専門領域における質の高い実践を導き出す看護学特論を置く。 3 専門看護師およびナースプラクティショナーの教育課程を置き、看護専門領域の高度専門職業人を養成するコースを併設する。 	<p>【入学者受入れの方針】</p> <p>看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、研究遂行能力または高度で専門的な職業人に必要な能力を養うという目的を理解し、次の資質をもつ学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高度な先端医療に対応できる技術、心理や生命倫理など全人的な理解、人々のQOLや自己回復を引き出す能力、保健医療福祉の課題などの熟達した対応が求められる分野で活躍したいと考えている者 ② 看護の現状認識と将来の展望にたつて保健医療福祉の課題を総合的・組織的に把握し、課題に対応できることを目指す優れた看護実践のためのキャリア形成を求めている者 <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また社会人特別入試を実施する。</p> <p>一般入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価する。</p> <p>社会人特別入試 入学者の選抜は、業績審査、外国語(英語)試験及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる看護実践実績及び(業務)研究実績、研究への関心・遂行能力等を評価する。</p>
【 学修成果の到達指標 】	【 学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法 】	【 求める資質・能力 】
<p>【学修成果】</p> <p>看護専門職・研究者として、看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、知識基盤社会を多様に支える高度な知的能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>自ら研究課題を発見し設定できる。俯瞰的かつ批判的なものの見方で研究論文を読み、研究方法等を評価できる。</p> <p>他者を納得させることのできるコミュニケーション能力を修得できる。</p> <p>情報発信力・語学力を含めたコミュニケーション能力を修得できる。</p> <p>生涯を通じた研究マインドを涵養する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>看護の基盤となる理論と実践を学修する教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護研究の意義、看護の現状分析、研究課題の検討 ② 研究的視点から研究課題を見出し、科学的な過程をふまえた看護実践に寄与する研究能力 ③ 自己の研究課題に関連した先行研究に関する批判的検討、関連する研究方略 ④ 研究計画を実施してその結果をまとめ、得られた知見を社会化するための論文作成および発表 <p>併せて、看護科学関連領域を含む、修士として身に付けるべき幅広い知識の修得のために、大学院共通科目及び研究科共通科目の講義を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>以下の内容のカリキュラムを講義・演習・実験実習により教授する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対象を全人的・包括的に捉え、援助ニーズに対応した看護介入に関する理論の適用方法について教授する。 ② 看護事象を探究するために、看護実践の構造を明確にし、理論創出する手法について教授する。 ③ 統計学の考え方、基本的手法、多変量解析、論文で使われる統計手法について教授する。 ④ 対象の理解と支援に関する諸理論、臨床判断・治療に必要な知識を理解し、高度な看護実践について教授する。 <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、論文審査において、自身の研究の看護学における意義に関する論述内容と、研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>看護という学問領域に関心を持ち、看護学研究を実施することの意義を理解し、価値を置いている。</p>
<p>【学修成果】</p> <p>看護専門職・研究者として、高度な専門的知識・能力と、一連の研究プロセスを網羅的に立案・展開できる研究能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>高度な専門的知識・関連する分野の基礎的素養を涵養する。</p> <p>自らの研究分野以外の幅広い知識を応用できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>卓越した看護実践を導く教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護理論の特徴、看護学の実践・教育・研究の特徴、基盤となる知識、看護の教育・研究領域の課題と方向性の探求 ② 看護実践のモデルとアセスメント方法 ③ 看護専門職の機能とその機能を駆使する方法と社会的責任 <p>【学修方法】</p> <p>看護実践のうえで必要となる人間の心理・行動原理について教授する。</p> <p>全ライフサイクルにおいて、病を持つ人から健康の維持・増進する人とその家族への、看護実践基盤となる主な理論とその概念、看護課題としての的確なアセスメント、必要なケアを探究する教授方法を実施する。</p> <p>保健医療福祉に関連する最新の知識・技術を獲得する方法と、看護実践領域への適用について教授する。</p> <p>対象の包括的アセスメント能力と高度な看護実践のための方略を探究する教授方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、論文審査において、自身の研究の看護実践上の意義に関する論述内容と、研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>より質の高い看護実践を提供するために、研究的アプローチによることの意義を理解し、価値を置いている。</p> <p>看護の高度で専門的な職業人としてのキャリアを積むことに価値を置いている。</p>
基盤的能力		
専門的学識		

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達指標】	【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 看護専門職・研究者として、高い倫理性・倫理観を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 看護倫理について深く理解できる。看護の学識者としての倫理観を備えられる。</p>	<p>【学修内容】 看護・研究倫理に関する教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 ①看護倫理の独自性の基礎をなすケアリング ②看護場面で向き合う健康課題や問題に対する倫理的判断 ③研究の全過程における倫理的配慮</p> <p>【学修方法】 看護の対象の特性に見合った、倫理的課題を検討する教授方法を実施する。患者や家族の擁護の立場から、安全なケア環境を促進し、倫理的実践の普及を志向する教授方法を実施する。併せて大学院共通科目「研究倫理」を講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により実施し、倫理原則、研究倫理ガイドラインを活用する方法を教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、論文審査において、自身の研究倫理に関する論述内容と、看護専門領域の高度専門職業人・研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 看護学領域の研究を遂行するにあたり、高い倫理観を有している。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 看護専門職・研究者として、看護の現状認識と将来の展望に立ち、保健医療福祉における課題を総合的・組織的に把握し、解決を図ることができ、地域社会・文化規範の中で責任を果たしうる創造力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 学際的な分野への対応能力を含めた専門的知識を活用・応用できる。現状の課題分析と方略策定ができる。保健医療福祉に携わる専門職の協働においてマネジメントできる。国際性、国際的な通用性、信頼性の向上、世界の多様な文化・歴史を理解できる。</p>	<p>【学修内容】 看護の学際性に関する教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 ①多職種連携における看護職の役割、チーム医療における看護の専門性と協働のあり方 ②人びとの健康な社会生活に貢献する制度政策への看護の戦略的・政策的働きかけの方法</p> <p>【学修方法】 現代社会で求められる看護専門職としてのあり方、現状と課題、将来の方向性を考える教授方法を実施する。保健医療福祉および看護政策の現状と課題、公的サービスの理念を教授する。各国における保健医療福祉政策、看護政策の現状と課題について比較検討する教授方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、論文審査において、自身の研究の発展可能性に関する論述内容と、看護専門領域の高度専門職業人・研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 看護専門領域の高度専門職業人・研究者として、生涯学び、自己研鑽することの意思を有している。</p>

総合医薬学研究科(基礎薬学プログラム)の三つのポリシー

【修士(薬科学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)

本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的

基礎薬学プログラムでは、幅広い知識を基盤とする高い専門性と、医学的素養を含む豊かな創造力、人間尊重の精神を基本とする総合的な判断力を培い、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修士認定・学位授与の方針】 基礎薬学プログラムでは、幅広い知識を基盤とする高い専門性と、医学的素養を含む豊かな創造力、人間尊重の精神を基本とする総合的な判断力を培い、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することが社会から期待されている。そうした人材を育成するために、本プログラムでは、所定の課程を修め必要な単位を修得し、かつ研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格し、以下に示す「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」を身に付けた者に修士(薬科学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 基礎薬学プログラムでは、修士認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる4つの能力を修得させるため、大学院共通科目、研究科共通科目、プログラム専門科目を体系的に編成して、講義、演習、特別研究を適切に組み合わせた授業科目を開講するとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・大学院共通科目では、修士として身に付けるべき知識、スキル・リテラシーを修得する。 ・研究科共通科目では、医療に携わる者として身に付けるべき知識、スキル・リテラシーを修得する。 ・プログラム専門科目では、序論科目により広範な専門知識を学修し、特論科目により先進的で高度な専門知識を修得する。 ・演習ではプレゼンテーション能力・論理的思考力・問題解決能力を修得する。 ・特別研究では、研究の計画立案力・遂行能力・問題解決能力を修得する。</p> <p>各科目の評価基準・方法はシラバスに示されている。修士論文は、学位論文評価基準に基づき、論文審査と口頭試問によって評価される。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 将来、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的としている。そのためには、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観の下で、薬科学に関する幅広い学識と高い専門性を備え、それらを統合、応用して創造性の高い研究を遂行する能力を身に付けることが必要である。この目的に基づき、本プログラムでは以下のような学生を求める。 ・薬科学及び学際的領域で活躍する研究者・教育者・技術者を志す者。 ・創薬科学、生命科学に関する専門知識を有する者。 ・研究を通じて、薬科学関連領域の諸課題を解決し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献したいという意欲を持つ者。 ・国内外の研究者に対して研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力を持つ者。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。</p> <p>一般入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p> <p>外国人留学生特別入試 入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。</p>
<p>【学修成果の到達指標】</p>	<p>【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】</p>	<p>【求める資質・能力】</p>
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 研究遂行に必要な薬科学関連領域の幅広い学識と総合的な判断力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 大学院共通科目及び研究科共通科目の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 薬科学関連領域を含む、修士として身に付けるべき幅広い知識の修得のために、大学院共通科目及び研究科共通科目の講義を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 4年制学部教育卒業レベルの薬学の基礎知識及び語学力を身に付けている。 薬科学関連領域の知識を修得したいという意欲を持っている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 薬科学関連領域の発展に寄与する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術、態度、並びに疾病の理解を含む医学的素養を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 プログラム専門科目の序論、特論及び演習・特別研究の修了要件単位を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を修得するために、プログラム専門科目の講義及び実習・演習を実施する。</p> <p>【学修方法】 序論、特論では、講義(対面又は多様なメディアを高度に利用)により学修する。演習では、各分野における最新の知見について紹介するとともに、それに基づく討論を行う。特別研究では、各分野における背景に基づいて設定された研究課題に取り組みながら、専門知識や技術について実践的に指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 序論、特論では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。演習・特別研究では、プレゼンテーションや質疑応答を行い、その成果を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専門知識、技術の修得のために必要な基礎知識、語学力、理解力及び論理的思考能力を身に付けている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 大学院共通科目「研究倫理」を修得していること。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理の規範意識や人間尊重の精神を養うために、研究倫理教育を実施する。</p> <p>【学修方法】 大学院共通科目「研究倫理」では、講義(多様なメディアを高度に利用)により学修する。研究に関わる法令や各種申請の手続きについて、研究室で指導を受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 大学院共通科目「研究倫理」では、試験やレポート等により成績評価基準に基づき総合的に評価する。法令・研究倫理の遵守に関する学位論文評価基準により評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 一般的な倫理観、道徳観を身に付けている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 専門知識、技術を統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、薬科学関連領域の諸課題を解決するための素養、並びに研究成果やその価値を説明、議論できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 修士の学位論文の審査及び試験に合格していること。</p>	<p>【学修内容】 創造性の高い研究を遂行するための素養及び研究価値を説明、議論できる能力の修得のために、薬科学特別研究を実施し、その成果をまとめて修士の学位論文を作成するとともに、修士論文発表会にて発表を行う。</p> <p>【学修方法】 論文及び発表資料の作成法やプレゼンテーションの手法を研究室の教員から指導、添削を受け、学位論文を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文発表会のプレゼンテーションや質疑応答、学位論文評価基準に基づく学位論文の審査及び試験により総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 薬科学関連領域の研究課題に取り組み、それを解決して社会に貢献したいという意欲を持っている。</p>